

議会報告会 報告書

秦野市議会議長 横山 むらさき 様

総務常任委員会委員長 中村 英仁

開催日時	令和6年11月16日（土）午前9時30分から午前11時45分まで
開催場所	市役所西庁舎3階大会議室
出席委員	委 員 氏 名（ 役 割 ）
	中村英仁委員長（全体及び1班進行、記録） 小山田良弘副委員長（2班進行）、大塚毅委員（2班記録）、 原聡委員、相原學委員、八尋伸二委員（1班発表）、古木勝久委員、 今井実委員（2班発表）
参加者数	○深谷 様（防災アドバイザー） ○伊藤 様（防災アドバイザー） ○江原 様（自主防災会） ○山本 様（自主防災会） ○添野 様（民生委員児童委員） ○丸山 様（民生委員児童委員） ○内野 様（民生委員児童委員） ○田村 様（民生委員児童委員）
主な流れ	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 常任委員会委員自己紹介 4. 参加者自己紹介 5. 議会報告 6. 議会報告の意見交換 7. 委員会の活動状況 8. アイスブレイク 9. 意見交換（ワークショップ） テーマ：防災・減災、国土強靱化の実現に向けて ①デジタル等新技術の活用について ②地域における防災力の強化（地域力の発揮）について 10. 発表・講評 11. 閉 会

内容 (話し合われた 課題や意見、所感 等)	【議会報告会の内容】 ・ 秦野市議会は平成 23 年に、市議会の基本理念などを定めた「議会基本条例」を制定し、議会基本条例の第 3 条議会の活動原則の中に、「議会報告会の開催または広報を行うことにより、活動の内容を報告または説明すること」としている。 これまで、幅広く参加者を募集して実施するスタイルや地区ごとに複数箇所で開催するなど、少しずつ手法を変えながら実施し、第 9 回からは、政策提言内容に関連のある団体との意見交換時に議会報告をする形にしている。 ・ 議会の仕組み ・ 秦野市議会の概要 ・ 通年議会制について ・ 政策提言について ・ 開かれた議会に向けた取り組みの紹介 それぞれの上記の項目内容について報告した。 (質問) 出前講座や夏休み議場見学会については、どのくらいの頻度で開催しているのか。 (回答) 出前講座は、市内の高校 3 校を対象としていて、今年度 11 月 21 日に秦野曾屋高校 3 年生を対象に行う。 夏休み議場見学会は、夏休みの 1 日を利用して、市内小学生 4 年生から 6 年生を対象に行い、本会議場を使用した議会体験や施設見学を行っている。 (質問) 出前講座の対象者を広げていく考えはあるか。 (回答) 子供たちに興味を持ってもらうためにも、今後は、小・中学生も対象とすることも検討している。 【意見交換内容】 大塚毅委員によるグッドアンドニューという、約 5 分間のアイスブレイクの後、意見交換（ワークショップ）が開催された。アイスブレイクを行ったことで、意見交換会において活発な意見が交わされ、スムーズに進むことができた。意見交換では、2 班のグループに分かれ、テーマに沿ってそれぞれで話し合いを行った。
---	--

	【1 班テーマ】デジタル等新技術の活用について [1 班の発表内容] 発表者：八尋伸二委員 1 秦野市総合防災情報システムについて (周知方法) ・動画（Y o u T u b e）を自主防災会で見てもらう。 ・緊急情報メールにリンク先を貼る。 ・OMOTAN コインの利用（見るとポイントをもらえる）。 ・普段から使うお得な情報を掲載。 (自助・共助・公助) ・発電機や蓄電池の購入。 ・中学生との連携。 ・民生委員 L I N E グループで共有。 ・ダイレクトに助けて欲しい情報収集。 (その他) ・たどり着くのが大変。 ・総合防災システムを知らない。 ・誰かが助けてくれる時代ではない。 2 要介護高齢者や障がい者等の情報デジタル化について (課題) ・要介護の程度が分からない。 ・名簿に載せたくない方もいる。 ・どこまでデジタル管理をするか。 ・障害や介護状況を隠してしまう。 (対応策) ・要介護情報は、紙でも大丈夫。 ・本人が声を上げられるデジタル化（L I N E／いちのいち）。 ・できる地域から行うモデル地区。 ・災害時、声を上げられるツール。 (まとめ) ・災害が、実際発生した場合、110 番にかけるのか 119 番にかけるのか、動揺してかけることができないことが想定される。 ⇒ 秦野市総合防災情報システムの普段使いをしていく。電源がなかった場合のことを考えると、自主防災会で発電機の購入も検討が必要。 ・避難訓練において、中学生に参加してもらうためにも学校と連携を取っていく必要がある。
--	---

	・要介護者の登録をされていても、少し歩けるなど状況が変わってしまった場合の対応もある。 ⇒ 要介護者の登録をすると終了ではない。現在、要支援者状況の確認は難しいので対応の検討が今後の課題。また、ケアマネージャーの連携が重要と考えるが、要支援者名簿に載せたくないという人もいる。 ・本人が声を上げることができるようなデジタル化を推進していく。秦野市総合防災情報システムと「いちのいち」や「LINE」等が連携できるよう検討していくことも必要。 (委員長所感) 今回、政策提案を行うにあたり、市民にも御意見いただきたいと委員からも声が上がったため、意見交換を行わせていただくこととなった。 現場の最前線にいる皆様より貴重な御意見を聞くことができた。また、こちらの想いも伝えることができ、大変貴重な時間となったことから、今後も継続していきたい。 【2班テーマ】～地域における防災力の強化（地域力の発揮）について～ [2班の発表内容] 発表者：小山田良弘副委員長 1 要支援者の支援について (情報) ・要支援者の開示。実際にリストを所持しているのは、自治会長・・・自治会全体 民生委員・・・受持ちの見守り ・大規模災害が発生した場合、どこに誰がいるかわからない。 ・インクルーシブ防災であれば、要支援者の個人情報の提供をオープンに予定している支援者を助けに行けるとは限らない。 (個別避難計画) ・個別避難計画も地区によって違ってくる。地震だけの地区もあり水に弱いところもある。 ・個別避難計画の開示、目標設定。 (具体的対応) ・障害を持った人の避難所の在り方はよく検討する必要がある。 ・隣近所の支援が必要であることや日頃の付き合いが大切。 (課題) ・個人情報にネック。一体的な動き（縦割りの弊害）。 ・個別避難計画の策定。
--	---

	2 みんなで作る防災マップについて (自助) ・自宅の立ち位置を十分配慮したマップ。 ・家族のあらゆる状況を想定したマップ対応 (共助) ・自治会や組ごとのマップが少ない。ハザードマップも災害の種類によって見方が変化。新しい市民とベテラン市民との情報共有。 ・防災マップは、地区別で北地区は、掲示板を作成し、公開している。自治会で作成。 ・誰にでも分かるマップの作成。地域性を十分に配慮したマップ。 (公助) ・防災マップ作成の出前講座は出来ないか。学校教育に取り入れる。 ・市全体、地域、自治会、隣組のそれぞれマップが必要。 ・解決策 ⇒ 回数を重ねる。 3 自主防災活動について (ソフト面・ハード面) (ソフト面) ・自治会の活性化 若い人に役員をやらしてもらえるムード作り。 ・学生の参加 (小、中、高、大学生)。 ・避難訓練の参加者が大体同じ。 ・水、電気、(電波) 等がない状態での防災活動の想定。 ・自治会員全体に防災意識の希薄化を感じる。どう活性化するのか。 ・歩行障害をかかえている方とリアルな避難訓練の機会が少ない。 ・自治会加入率が低下している原因として 1 加齢により組長ができない 2 核家族の形態が増加 3 隣近所の付き合いが希薄 ・実際に活動している自治会は少ない。名前だけのところが多い。 ・実際に災害が起こったときに対応できるか不安。 ・自主防災を13年行ってきたが住民の協力なしには、出来ない。 ・防災訓練を自治会単位で行っているが、緊張感が希薄。住民の意識改革が必要。 ・地域ごとに災害の種類が異なるので、地域特性に応じた訓練とマニュアルが必要。女兒、女性への配慮。 ・自治会非加入者に対する自主防災会の対応が難しい。障がい者も含めた自治会未加入者の方への対応。 ・地元消防団との連携をしているのか。
--	--

	(ハード面) ・防災グッズを購入しても、その後、放置している場合が多い。 ・ごみステーションに掲示板を設置し活用する。自分の身は自分で守る。少なくとも家族単位で共有。 ・自治会の拠点、公園等の避難所の充実が必要。 ・避難訓練のメニューが毎年一緒。 ・(要望) 避難所設営、訓練時、知的障がい者の避難所の対処方法をお願いしたい。訓練に加えてほしい。 ・全体的に地域住民が市内で起きた災害を知らない。どのように知らせるのか。 (まとめ) ・要支援者情報は、行政から自治会長や民生委員に伝わっているが、その先に伝わっていない。その情報伝達が今後の課題。 ⇒ 名簿作成には、隣近所の普段の付き合いが大切であり、1軒1軒きめ細かく対応して作り上げていくようなシステムを構築していくべきと考える。 ・防災マップは、地域によって異なるので、大根・鶴巻地区のように水害や山沿いの土砂災害が起きるところについては、きめ細かいものが小規模単位で必要になることとなる。北地区では、まちづくり計画の中で、今、地域に沿った防災マップの作成をしている。 ・自治会も2年毎に替わり、自主防災会の継続性も非常に危惧されているので、若者がどうすれば参加してくれるかということも課題となっている。また、いざ災害が起きた時に共助するにも、隣近所の人たちとのかかわりは、日頃からの付き合い、声掛けなどが大切であるとの声が上がった。 (副委員長所感) 地域を代表する皆さんの防災意識の高さと地域を守るという熱い思いを感じ、より具体的な対応策の提案もいただき、有意義な意見交換ができたと思います。誰ひとり取り残さないインクルーシブ防災について、今回の意見交換の内容を取り入れた具体的かつ実現性の高い提案にしていきたいと思います。 意見交換の発表後、中村英仁委員長から講評があり、小山田良弘副委員長から閉会のあいさつがあった。
--	--